

ハイハイプロジェクト実施報告書

- 1 実施日 平成27年9月15日(火)
- 2 実施団体 社会福祉法人大誠会 西東京市立田無保育園
- 3 実施場所、参加状況等

日	時間	場 所	内 容	人数
9/15	17:45～ 19:45	田無保育園	職員研修 乳幼児運動発達支援研修会	保育士：24名

4 実施内容、感想

(1)保護者向けのお話し

「からだを育む運動」～発育発達に沿った運動で体の根っこを育てよう～
6月に話をした復習の意味も含めて、私が日ごろ保護者に対して行っているお話しを行った。発育発達に沿った運動の大切さを保護者にも分かってもらうことで日常の保育活動がし易くなると思う。

(2)実技

① 発育発達に沿った運動体験

コアキッズ体操を行い、前後で足裏にかかる重心の位置、体の動きなど自分の体の変化を体感してもらう。

また、その運動をパッケージで行うのではなく、現場で工夫しているやり方、親子で行うものなどを紹介した。

② 多様な運動・・・園にある道具を使い運動の工夫

マットでハイハイ競争、わたる、くぐる、ころがるなど

道具・・・巧技台、マット、ソフト積み木、椅子、フラフープなど

これらの道具を並べて、サーキットのようにする。

③ 各クラスからの質問に回答

事前に頂いた質問に対して回答

・ハイハイについて・・・したがない子に対する促し方、遊びのバリエーションなど

- ・転びやすい子
- ・手先が不器用
- ・年齢ごとの遊び

などの質問があったが、ヒトの発育発達に沿った運動発達に飛び級がないこと、年齢ごとの遊びは、それまでの運動経験・環境の差により体の状況が違うことがほとんどであるため、運動発達がどの段階にあるかで考えることが大切。そのうえで、クラスの中でバラつきのある子どもへの遊びの工夫の仕方などの話をした。

5 所感

現場で子どもたちに運動発達を促す遊びを実践できるようにということで、6月に引き続いてご依頼いただいた。

園長先生は、特に若い職員が積極的に考える力や自主性を育てたいという思いがあり、事前に質問もいただきそれに応えるような内容とした。

思い切り走り回れる広いスペースがない園のため、先生方の発想で工夫していくが必要があると感じた。

先生方には、発育発達に沿った運動でどう変わるか自分の体で体感してもらうことから行っただが、「きつい！」といいながらも「重心が安定した」「動きやすい」などの感想を言っていた。

その後の多様な遊びでは、先生方の表情がどんどん変わっていく様子が分かった。私の提案したものから、どのように変化させたらいいかの課題にも積極的に工夫が始まり、現場を知っている方は面白いと感じた。ただ、「この道具の使い方はこれ」というように固定観念があり、「こんな使い方ができるんですね」という新たな発見があったようだ。

保育士さん方が現場で「どんな工夫ができるか？」という目線でいるとアイデアが浮かんでくると思うので、そのきっかけができたのであれば嬉しい。

後の感想では、「体がかかるなくなった」「軽く筋肉痛だった」「ビデオに撮っておきかかった」などいただいた。また、11月の保育参観では、保護者の方にいくつか紹介して一緒に運動遊びを楽しんでもらえるようにしたいと言っている。

園長先生は、さらに今後も研修をしていきたいと言っておられ、現場では「子どもたちの体何か変？」の危機感があり、少しでも自分たちができるところを模索しているのだと思う。

今後も、このハイハイプロジェクトを全国に発信していく必要性を強く感じた。

平成27年9月24日

報告者 樋口和子